

中濃農林事務所の普及活動状況 令和5年9月25日現在

ぎふ農業・農村を支える人材育成

■JAめぐみの就農塾 第5回夏秋なすコース

9月4日、JAめぐみの実証圃場において、就農塾（夏秋なすコース）が開催された。

今回は就農塾生5名が参加し、前回も講義を受けた収穫、切り戻し剪定に加え、摘芯について学習した。JAめぐみの、農業普及課が講師となり、作業のコツや注意事項について説明を行った。その後、とれったひろば関店を見学し、直売所への出荷方法を学んだ。

農業普及課では、今後も就農塾支援を継続して、受講生のスムーズな新規就農を支援していく。
(地域支援係)



【直売所視察】

安心で身近な「ぎふの食」づくり

■水稻（採種） ほ場審査

水稻採種ほ場のほ場審査は、農業経営課、郡上・可茂農林事務所から種子審査員として、JAめぐみの、全農岐阜、岐阜県米麦改良協会等関係機関の協力も得ながら実施している。

9月は「ハツシモ岐阜SL」の出穂期審査、「ほしじるし」「モチミノリ」「みのにしき」「ハツシモ岐阜SL」の糊熟期審査を行い、9月29日に終える予定としている。

審査基準に基づき、異品種混入や病害虫・雑草の発生状況等を審査した。残念ながら雑草管理が不十分との理由で一部のほ場が不合格となったが、高温多湿条件による紋枯病等の影響を最低限に抑えて適切に管理されていた。

農業普及課では、ほ場審査を適切に実施し、水稻優良種子の確保につなげていく。

(地域支援係)



【審査ほ場】

■小麦 作付前栽培指導

中濃農林事務所管内の令和6年産小麦栽培は約230haが計画されており、新たに2名の生産者が小麦栽培を開始する予定となっている。

農業普及課では、新たに小麦栽培を開始する生産者を対象に、小麦栽培における注意点や重要事項等の説明をJAめぐみと連携して個別に実施した。また、他の生産者に対しては、令和5年産小麦栽培の結果をもとに、肥培管理や雑草防除、排水対策等について提案や情報提供を行った。今後は、ほ場準備や播種作業も含め、栽培状況を確認しながら、高収量を目指した小麦生産を支援していく。
(地域支援係)

■大豆 防除指導

中濃農林事務所管内では、大豆「フクユタカ」が約150ha作付けされており、8月下旬に開花期を迎えた。大豆開花後は、定期的に降水があり、花落ちが見られず概ね順調に生育している。

9月4日に、ハスモンヨトウを対象とした病害虫発生予察注意報が発表されたことから、農業普及課では生産者へ防除について情報提供を行った。生産者はほ場の状況を確認し、カメムシや紫斑病との同時防除を行い、現在は小康状態を保っている。

農業普及課では、今後も引き続き生育状況等を確認しながら、高収量・高品質な大豆生産を支援していく。
(地域支援係)

ぎふ農畜水産物のブランド展開

■いちご 花芽検鏡による生産の安定

中濃いちご生産組合では、9月より定植前の苗の花芽検鏡を実施している。今年は気温が高めで推移しているため、花芽の分化が遅れ気味となっており、9月15日までの調査では、特に「濃姫」で未分化の苗が多く見られた。9月20日の調査では、「濃姫」を含む多くの品種で花芽分化が確認できるようになり、問題なく定植できる状況になってきた。

農業普及課では、組合員より持ち込まれたいちご苗ひとつひとつについて花芽検鏡を行っている。苗ひとつ当たり約6分かけて実体顕微鏡を覗きながら、針を用いて葉を取り除いて花芽を確認し、検鏡結果からみた適切な定植時期について組合員に助言を行っている。

(地域支援係)



【花芽検鏡作業】